



大地

校長 指崎 邦久

子供たちを迎え、2学期を無事に始めることができ、うれしく思うとともに安心しています。「おはようございます」と元気よい声で挨拶をする姿、休み時間に友達と楽しそうに遊ぶ姿、先生を見つめながら真剣に考える姿から、夏休み中にご家庭でよい時間を過ごせたことがうかがえました。

8月20日には、早朝からの親子クリーン活動に多数ご参加いただきありがとうございました。おかげでグラウンドや校舎がきれいになり、よい環境で子供たちを迎えることができました。遠くから歩きながら子供と一緒にごみを拾ってくださった姿や、たくさん汗をかきながら作業をしてくださった姿に、頭が下がりました。子供たちも、大人の姿から多くのことを学んだことと思います。

2学期も、友達と力を合わせながら成長していけるように、指導し、支えていきます。今学期も、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

規則正しい生活リズムを

久しぶりに子供たちに会うと、身長が伸びたと感じる子供が多くいました。日光照射時間が長い夏場には、紫外線を浴びることでビタミンDが多く作られ、カルシウムの吸収率が高まり子供の背が伸びやすくなるといわれています。酷暑をもたらした日光ですが、よい面に目を向けるといろいろな効果があるものと改めて思いました。身体計測で体の成長の様子が分かります。ご家庭でも、子供の体の変化について話し合ってみてください。成長のためには、バランスのよい栄養の摂取と、適度な運動による体への負荷、そして、十分な休息が欠かせません。夏休み中の生活の仕方を見つめ直し、実りの秋へ向けて充実した毎日を送ってほしいです。そのためには、規則正しい生活リズムが必要になります。ご家庭のご協力をいただきますようお願いします。



静かに話を聞く子供たち



花壇の草を取る子供たち



漢字の練習をする子供たち



友達と話し合う子供たち

2学期、ともに成長するために ―人権について―

先日、人権に関する次のような話を聞く機会に恵まれました。

人は誰でも人権が大切だと分かっている。しかし、自分が正しいという思いが勝り、知らず知らずのうちに、相手を傷つけてしまうことがある。例えば、子供が友達と喧嘩をしたときにひどい言葉かけをする。大人も、教えようと思って言葉が強くなることもある。～中略～自分の意見を伝えるときに、自分の側からの見方になり相手を否定することから始まると、相手の話は全て言い訳に聞こえてしまい、ひどいときには相手を傷つけ、損害することになる。そうならないためには、考えを整理して落ち着いてから話をするのがよい。深呼吸をしたり、ゆっくり数を数えたりすることも効果的である。

この話を聞き、いろいろな場面を思い浮かべました。私自身、分かっているけど感情の揺れに流されてしまうことがあります。感情が揺れても、相手を信頼できれば冷静に考えることができると思いました。まず、私たち大人が日頃から相手のよいところに目を向けて、その人を信頼する大切さを確認しました。また、このような話も聞かれました。

トレーニングは一定の負荷を与え、続けることが効果的である。これは、心の成長にも同じである。学校生活は楽しいことばかりではなく人間関係や学習のつまづきに悩んだり困ったりすることもある。それを乗り越えていくことで成長していく。このときに、すぐに手を差し伸べて負荷を取り除くと成長ができなくなる。かわいい子供はすぐに助けたくて、我慢して見守り、自分で乗り越えようとするのを応援してもらいたい。ただ、どうしても乗り越えられないときはタイミングを見極めて手を差し伸べよう。

どれだけの負荷なら乗り越えられるか、今、手を差し伸べるべきかどうかなど、見極めることは難しいことですが、学校と家庭が情報を共有しながら子供を見守っていくとできそうな気がします。

東北からの学び

東日本大震災にあいながら、子供たちを無事に避難させた元校長先生の話聞くことができました。

普段の訓練があったから、素早く行動できたと思います。いざというときに役に立つのは、普段からの積み重ねです。学校の中で、当たり前なことを当たり前のように力を合わせてきました。先生の話静静地に聞く、廊下を走らないなど決まりを守る、自分のことは自分でするということができるようになってきたことが生きたのだと今になって思える。

と教えていただきました。改めて日ごろからの積み重ねの大切さを改めて実感しました。最後に、避難先での子供たちを見ていて感じた次のように話していただきました。

生きるだけではだめなのです。どこで生活しても、生き抜かなくてはいけないのです。そういう力の子供たちにつけなくてはいけないのではないのでしょうか。

この言葉は、大きな宿題となりました。